



【学校教育目標（めざす子どもの姿）】

- 自ら進んで学びとる子ども（知：確かな学力）
- 礼儀正しく思いやりのある子ども（徳：豊かな心）
- 心と体を鍛える子ども（体：健やかな体）

I はじめに －「TEAM MANAUS ONE FOR ALL ALL FOR ONE」－

これからの時代を表現する言葉として、「予測が困難な社会」、「先行き不透明な社会」などが使われるようになり、久しい。確かに、狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)と変容を遂げてきた社会は、第5の新たな社会として「Society 5.0」と名付けられ、今までの経験や価値観の範疇には収まらない社会へと変容を遂げつつある。しかし、今まさに現在進行形の「Society 5.0」の社会の行く末を正確に予測することは容易ではないにしても、「先行き不透明な社会」と表現して揶揄するのは、果たして適切なのだろうか。

本校の児童生徒は、まさに「グローバル社会の最先端」で多様な価値観や文化の融合を実感しながら、豊かな感性で時代の流れを敏感に感じ取っている。このような児童生徒にとって「Society 5.0」という社会の到来は、まさに自己のアイデンティティを発揮できる大きなチャンスである。「予測が困難な社会、先行き不透明な社会」は、言い換えれば「自分の知識や経験、能力によってグランドデザインできる社会」であり、そのまっただ中で生きるということは、限りなく「キャリアプランニング」の選択肢や可能性が広がることを意味している。

そのためには、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」等の能力が必要となる。これを児童生徒に確実に獲得させるためには、大人の意図的・計画的な質の高い教育（学校教育、家庭教育、社会教育も含む）と、児童生徒の「主体的に学ぶ意欲」が必要である。

マナウス日本人学校では、「マナウス丸(Team Manaus)※1」という未来への船を Society 5.0の空間に建造し、学校・家庭・地域が一体となって全ての児童生徒をこの船に誘い（いざない）、これからの大海原を「生き抜く力」を培っていききたい。

※1「TEAM MANAUS」とは、教職員・保護者・地域住民といった制度的・社会的・文化的立場の違いを超越して集まった、本校児童生徒の教育に関わる人間の総体で、子どもの人格の陶冶に資する支援組織と考える。

II 学校経営の基本方針

新学習指導要領完全実施を踏まえ、小学校3・4年生での外国語活動、小学校5・6年生での外国語、特別の教科道徳の実施など、移行期間の成果と課題を踏まえ、継続して取り組む内容、改善と修正を加える内容をしっかりと吟味し、児童生徒の実態に即した新しい教育課程を編成する。

また、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性」など育成すべき資質・能力が明確に示されたことを受け、「生きる力の育成」という大命題を中心に据え、教育課程を抜本的に刷新し、質の高い学びの展開へと改善を加える。

さらに、校内研究を充実させ、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」に取り組むとともに、児童生徒が「日常生活の中で学んだこと、知識として習得したこと」を生かして新たな知を生み出していく「習得→活用→探究」という一連の流れを、しっかりと教育活動の中に定着させていきたい。

あわせて、本校の特色ある教育活動で習得した体験知を、事後活動や表現活動において経験知として再構築させ、自己の生き方についての自覚を深めさせていきたい。

1 めざす子どもの姿

- 自ら進んで学びとる子ども（知：確かな学力）
- 礼儀正しく思いやりのある子ども（徳：豊かな心）
- 心と体を鍛える子ども（体：健やかな体）

2 めざす教師の姿

- 教育への情熱と夢をもち、児童生徒の意欲を引き出す教師
- 率先垂範を心がけ、児童生徒の成長した姿で教育の成果を感じとる教師
- 児童生徒理解を深めながら、それぞれのよさを認め、引き出し、伸ばす教師
(特別支援教育の視点とカウンセリングマインドをもって)
- 研究課題をもち、日々研鑽に励み授業改善に努め、学び追究し続ける教師
- 他者を尊重し、他者から学ぶ謙虚な姿勢をもち続ける教師
- 「不易と流行」を常に意識し、本質をしっかりと見極めることができる教師
- 児童生徒・保護者・日系を含む現地社会及び学校を支える関係機関・教職員間とのコミュニケーションを意図的・積極的に図り、教育活動及び結果に責任をもつ教師
- 教育公務員としての使命感を自覚し、組織的な学校運営による教育課題解決に努め、積極的に学校づくりに参画するとともに、服務規律を遵守する教師

3 めざす学校の姿

- 児童生徒が学校生活に感動と充実感をもち、学校に行くことが楽しいと感じる学校
- 保護者・日系を含む現地社会及び学校を支える関係機関との信頼関係を構築し、ともに子どもの健やかな成長を支える学校
- 教職員が切磋琢磨し、教育について夢を熱く語り合い、成果を共有できる学校

4 めざす保護者・日系を含む現地社会及び学校を支える関係機関との連携

- 児童生徒の社会性や規範意識の育成を基盤にし、「早寝・早起き・朝ご飯」などの基本的生活習慣を定着させるための深い連携
- 児童生徒の学力向上をめざし、学校の授業と家庭学習を十分に関連づけ、望ましい学習習慣を身に付けさせるための積極的な連携
- 「人間は他者との関わりの中で育つ」という考え方をもとに、学校行事・日系社会を含む現地社会と連携した行事・学校評価などを活用し、学校を支える関係機関が一体となって「世界で活躍する人間」を育成するための深い連携

Ⅲ 学校経営の重点

1 生きる力を育むための教育活動の重点

学びの基盤づくり	学びの力づくり	ゆたかな心づくり	健やかな体づくり
<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育目標の具現化(学校教育目標の可視化) ○教育課程の改訂・検証・改善・充実 ○本校の立地条件を生かした特色ある教育課程の編成 ○学校評価を活用した教育課程の改善・充実 ○ICT 機器の整備と有効活用 ○授業を前提とした校内研究会の実施及び指導力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○標準学力検査・全国学力学習状況調査の分析と活用 ○知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力および学びに向かう力や人間性の育成 ○十分な指導時間の確保と指導方法の工夫及び改善 ○習得・活用・探究が繰り返されるスパイラルな授業の推進 ○家庭と連携した自己学習サイクルの定着 	<ul style="list-style-type: none"> ○爽やかな挨拶がかわされる教育環境の構築 ○いじめ撲滅に向けた自治活動の推進 ○児童生徒の発達段階に応じた道徳教育の推進及び指導内容の重点化・関連化、体験活動との融合 ○「特別の教科道徳」の時間の指導改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○新体力テスト結果の科学的分析・考察に基づいた教育課程の改善・充実 ○たくましい体及び危機回避能力を育てる教育の推進

2 教育環境の整備

- (1) 100%安心・安全な地域はどこにもないという危機意識を常に持ち、事件・事故をはじめ種々の危機について管理能力を高める。
 - 危機管理について想定されるものについてはマニュアルを作成し、周知徹底を図るとともに常に見直しを行う。

- 児童生徒の生徒指導上の問題などについては、迅速かつ適切な対応ができるよう、組織的かつ計画的な取組を行う。
- すべての児童生徒が安心して充実した学校生活を送ることができるよう、全職員一丸となって生徒指導に取り組む。特に、「いじめを許さない、見過ごさない」学校づくりに全力を挙げて取り組む。
- (2) 保護者・日系を含む現地社会及び学校を支える関係機関との相互連携強化を図り、開かれた学校づくりに努める。
 - 参観日、家庭訪問、学校・学級通信・ホームページの充実にも努め、教育活動の成果などの情報発信を積極的に行う。
 - 参観日、学校行事、集会活動など、何時でも参観できる体制を整える。
 - PTA行事、日系を含む現地社会及び学校を支える関係機関の行事などへは積極的に参加・協力する。
 - 保護者アンケート、児童・生徒アンケート、自己評価を相互に関連させた学校評価の分析・考察を積極的に公表し、学校改善に活用する。
- (3) 学校事務の適正化と簡素化・効率化に努める。
 - 教育予算の計画的・効率的な執行による教育活動の適正化に努める。
 - 施設設備を計画的に維持・管理を行う。
- (4) 温かく働きがいのある職場づくりに努める。
 - 教職員一人ひとりの力が効果的に発揮できるよう、適材適所への配置に努める。
 - 報告・連絡・相談・伺いなどが的確に双方向で交流される、開かれた校長室・職員室とする。
 - 心身の健康管理に努め、教職員間の協力・協働、支援体制の充実を図る。
- (5) 新型コロナウイルスに対する徹底した感染予防対策の実施。
 - 消毒、換気、フィジカルディスタンスの確保など、ハード面において徹底した感染予防対策を施す。また、健康観察、うがい手洗い、自己判断におけるフィジカルディスタンスの確保など、ソフト面における感染予防対策が自分自身でできる児童生徒を育成する教育環境を整える。

3 具体的方策

(1) 確かな学力の定着を図る教育活動の推進

- 全国学力・学習状況調査や標準学力検査の結果を分析し、各学級で改善策を検討し、校内研修を通して改善策を具体化する。
- 実践された改善策について適時評価を行い、次の改善策や実践につなげる。
- 学びがにつながる授業（課題とまとめのある授業、肯定的評価のある授業、既習事項をいかした授業など）を展開する。
- 板書の構造化（板書をみればその時間の授業がわかる）、学習内容が再確認できるノート指導など指導方法や指導過程を具体的に改善する。
- 言語活動の充実を通して、思考力・表現力・判断力を高める授業に取り組む。
- 操作活動や観察・実験など体験的な学習を通して、「日常生活と関連した理解を図り、学ぶことの有用性を実感できる指導」を充実させる。
- 児童生徒に教科等の見方考え方を働かせながら深く考えさせる授業に取り組む。
- 十分な時間と場を設定し、繰り返し学習や補充学習を充実する。
 - ・ボンジアタイムを活用して漢字・計算力の向上・習熟を図り、学力の定着を図る。
 - ・休み時間や長期休業中の補充学習の機会を拡充する。
 - ・児童生徒の実態に即した宿題等を与え、家庭学習習慣を定着させる。
- 各種検定（漢字検定・英語検定など）を実施する。
- 日本文化コースの日本語能力向上を図る。
- ICTを効果的に活用し、学習への興味・関心を更に高める授業を展開する。
- 読書活動（朝読書、読み聞かせ、読書〇冊運動など）を充実する。
- 学習規律を定着させる。

(2) 総合的な学習の時間及び国際理解教育の推進

- 多様な学びと絆づくりのため、日本文化コースと全日コースの合同授業を企画・推進し、日常的に相互交流を図る。
- 日本文化を大切にしたい学校行事や諸活動を企画・推進し、自国理解を深める。
- マナウスやアマゾンの自然・歴史・生活習慣などから課題を見つけて、現地の環境・文化についてグローバルな視点から理解を深める。
- 現地校や地域教材・地域人材を活用して国際感覚豊かな児童生徒を育成する。
(ジョゼフィーナ校、ジジャウマ・バチスタ校・UFAM との連携を深める。)
- 地域素材や環境を活用した体験的活動を充実させるカリキュラムの編成・実施に取り組む。
- 現地校交流や修学旅行などを活用して、生活で活用できるポルトガル語教育を実施する。

(3) たくましい体・危機回避能力を育てる教育の推進

- 新体力テストを実施・分析・考察を通して、運動能力等の向上に活用する。
- 新体力テストの各種目で総合評価 B 以上を達成する児童の割合 70% 以上を数値目標として体力作りに取り組む。
- 体育の時間の充実を図るとともに、長距離走大会に向けた練習やアララの時間の充実など、計画的・継続的な体力作りに取り組む。
- 「自分の身は自分で守る」危機回避能力を育てるため、マナウス日本国総領事館や地元警察などと連携した実効ある避難訓練などを実施して、緊急時における安全確保に努める。
- スクールバスに関わる利用・安全指導を充実する(添乗指導、マナー指導)。
- 全教職員で、日常の観察に基づいた安全な遊び方指導や安全指導を継続的に行い、月一回学校の施設設備や遊具の安全点検を実施する。
- 今後、生きていく上でどのような災害、疫病に見舞われるか予測困難な状況のため、新型コロナウイルスの惨禍を教訓とし、あらゆる危険から自分自身で身を守るための知識・知恵を獲得することができる教育を施す(子どもたち一人一人が、自分の心の中に、自分の身を守る防波堤を築くことを支援する)。

(4) 子ども一人一人によりよい生き方を実現させていくキャリア教育に努める。

- 自己を見つめ、自分の良さを発見し伸長を図る指導に努める。
- 夢や希望、自己の生き方について考える教育活動の設定や指導を推進する。

(5) 外国語・外国語活動

- グローバル人材育成に向け外国語科(英語)及び外国語活動の指導を充実させる。
- 英語検定を実施し、英語に対する興味関心を高め、学習の成果を実感させる。

(6) 豊かな心を育てる教育の推進

- 豊かな感性をはぐくむ道徳教育の充実
 - ・心に響く道徳の時間の授業研究及び道徳の時間の改善・充実に取り組む。
 - ・全校道徳の人材活用や心を動かす道徳教材の工夫と共有化を推進する。
- 委員会活動と連動した「いじめ0」運動の推進
 - ・言葉を整えることは、心と行動を変え、良い習慣をつくる。「温かく支えあう言葉」を話し合わせたり校内掲示したりするなど子どもたちに意識化させる。
 - ・子どもたちが中心となって「いじめ0宣言」に取り組むとともに、お互いを大切にし、助け合い励まし合う学校、学級や仲間づくりをする心を醸成する。
- 教育相談活動の推進
 - ・多様な機会を活用した個別面談(児童・保護者)を実施する。
 - ・家庭訪問や電話連絡を怠らず、保護者とときめ細やかな連携を図る。
- 上履き校舎(新調した下足箱)を活用した心の教育の推進
 - ・「自分の履物を整える＝自分の心を整える」ことであることに留意し、日本文化の大切にしてきた「礼儀作法」等について、日本人学校らしく充実した指導を行う。

(7) 保護者・地域との連携を図る教育活動の推進

- 家庭学習の手引きの活用と家庭学習の習慣化に取り組む。
(学年×10分以上の家庭学習の継続、宿題の日常化)
- PTA行事や日系を含む現地社会及び学校を支える関係機関の行事への参加奨励。
- 保護者の声を学校改善に反映させる。

(8) 組織が機能する学校運営体制の推進

- 校長の指導のもと、教務主任を中核としたバランスの取れた組織的運営を行う。
- 授業時数を十分に確保する。また、特色ある教育活動を推進するなど組織的に教育課程の進行管理を行う。
- PDCAサイクルが機能する分掌・学校運営を構築する。
- 報告・連絡・相談を徹底する。

(9) 教育環境の整備

- 子どもの活動の様子があふれる校舎・教室掲示を推進する。
- 温かい思いやりあふれる言葉遣いを徹底する。とりわけ、教師は最大の教育環境であることを自覚して、話し方、行動や服装など率先垂範を心がける。
- 「心を磨く清掃活動」への意識転換を一層進める。

(10) 学校教育目標の可視化（「マナウス丸と「TEAM MANAUS」の取組の推進」）

- 学校教育目標の可視化に取り組み、「TEAM MANAUS」の理念を学校・保護者・地域社会で共有し、一枚岩となって児童生徒ひとりひとりの「人格の完成」に取り組む。

IV おわりに

ジャン＝ジャック・ルソーは著書エミールの中で、人間を育てる行為と動植物を育てる行為を明確に峻別し、次のように述べている。

植物は栽培によって育つ

動物は調教によって育つ

そして人間は教育によって育つ

私たちがこのマナウス日本人学校でめざしているもの、それは「ひとづくり」である。私たちは、Society 5.0の空間に建造したマナウス丸に子どもたちを誘い、「マナウスの抜けるような青空のように聡明で、アマゾン緑のような深みのある子どもたち」を育てる航海に船出したい。そのときには、本校の子どもたちのさわやかな笑顔が、「マナウス丸」の進むべき方向を照らす南十字星となり、「TEAM MANAUS」における取組が、そこまでの道のりを示してくれる、極めて正確な羅針盤となってくれることと確信している。

